

精神障がいのある親と暮らす学齢期の子どもの生活実態

— 養護教諭を対象とする質問紙調査の結果から —

○ 首都大学東京 長沼 葉月 (7246)

キーワード：精神保健福祉、家族支援、チーム学校

連絡先：hmakino@tmu.ac.jp

背景と目的

- 精神障がいのある親と暮らす子どもの困難は、当事者の体験談出版を契機に注目されるようになった。親の病気は自分のせいだと強い罪悪感を抱き、親へのケア負担、日常の家事の負担を背負うことや、先の見通しのもてない困難感があり、自殺のハイリスク要因であることも指摘されている。
- 日本の地域疫学研究では成人対象者の2.8%に精神障がいの親がいたとされ、精神障がいの親をもつ子どもの精神障がいの発症リスクを高めるとされる (Fujiwara & Kawakami, 2011)。ドイツでは子どもの13~19%、オーストラリアでは23.3%という報告もある (田野中・土田・遠藤, 2015)
- 精神保健福祉と児童福祉の子ども福祉に関する認識の差異 (松宮・八重樫, 2013) の狭間で、支援が行き届きにくい



支援を必要とする子どもへどうアクセスできるだろうか？

- 周産期ケア (母子保健)
- 就学前支援 (子育て支援)
- 学齢期以降の実態は？

目的：精神障がいのある親とともに暮らす児童生徒について以下の点を明らかにする

- 実数はどの程度なのか
- どのような生活課題があるのか
- 関連機関とどのように連携して支援しているのか

方法

対象：A県の全公立小中学校の養護教諭

※全小学校814校、中学校419校のうち2016年4月1日時点で休校中の小学校3校、中学校1校を除く、計1229校に調査票を送付

時期：2016年10月~11月

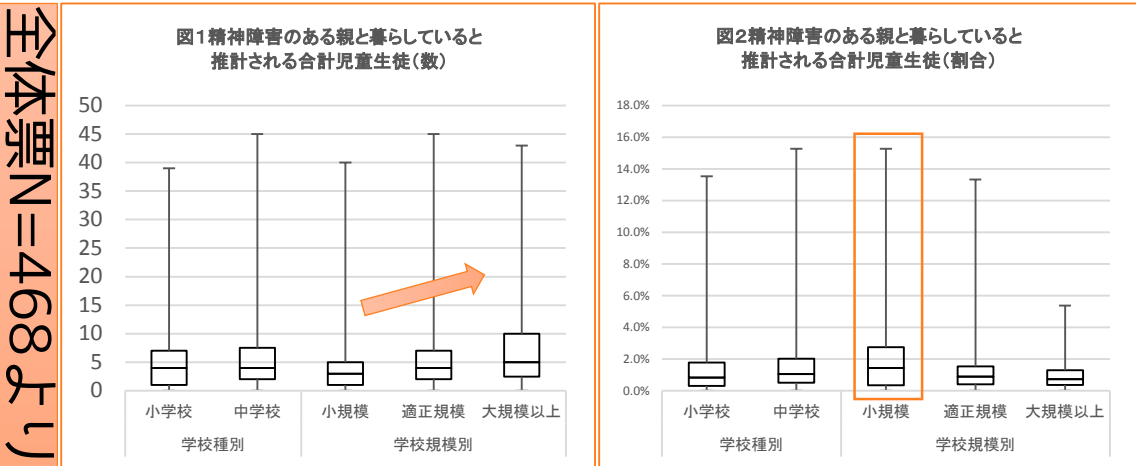
方法：無記名式自己記入式質問紙調査 (郵送回収法)

調査項目：【全体票】年齢階級・性別・勤務年数、メンタルヘルス面での課題を抱えた保護者と共に暮らす子どもへの支援観、精神障がいのある親と暮らしている児童生徒数 (保護者や他機関からの情報ではっきり把握している生徒数と児童生徒の様子から気にかけている生徒数)

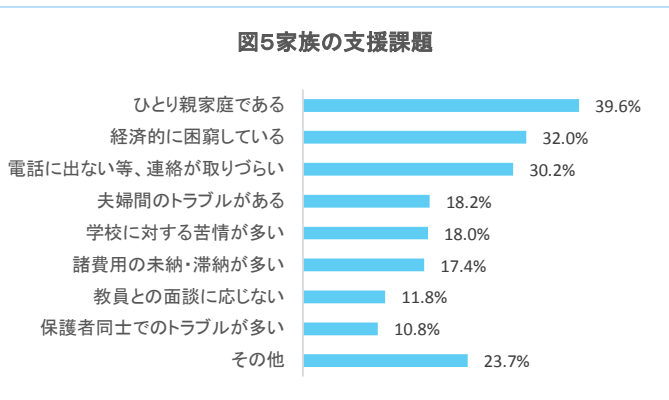
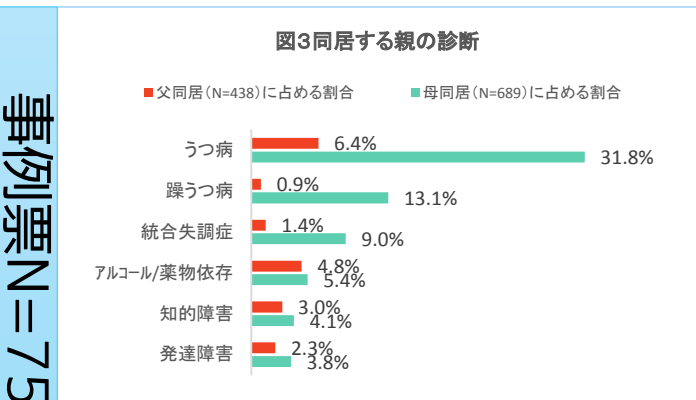
【事例票】同居家族、親の診断、支援ニーズ、関係機関 (各校最大4例)

- 科学研究費補助金 (基盤研究 C 研究課題番号 16K04149) にて実施。
- 対象者には文書で調査の主旨を説明し、調査票回収をもって同意とみなした。
- 首都大学東京研究安全倫理審査委員会による承認 (承認番号 H29-28)。
- 送付した 1229 校中、468 校から回収 (回収率 38.1%)。

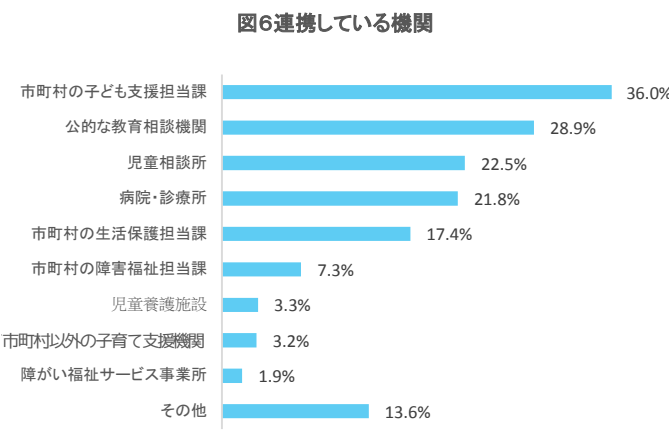
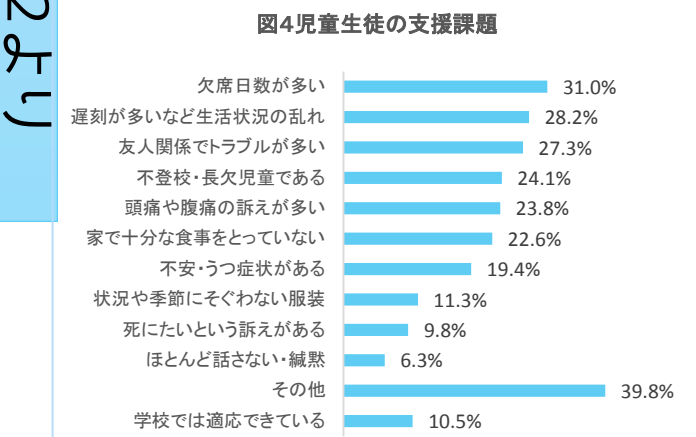
結果と考察



- 精神障がいのある親と暮らす児童生徒推計数は、各学校あたり平均で5人程度であったが、40人近くを挙げる学校もあった (図1)。総児童生徒数に対する割合では、1.5%ほどであった。「0人」という学校が12.4%に達する一方で、40人以上を挙げる学校もあった (図2)。
- 学校種別による違いは見られなかったが、人数は学校規模が大きい程多かった (図1)。しかし生徒総数に対する比率では小規模校で高かった (図2)。
- 養護教諭の経験年数や当該校勤務年数による差は見られなかった。
- 小規模校の方が、児童生徒の家庭状況も含めて養護教諭が情報を詳しく把握しやすいと考えられる。



- 親の診断では、母親同居の場合のうつ病 (31.8%) が最多で、次いで躁うつ病 (13.1%)、統合失調症 (9.0%) と続いた。父親同居の場合にはうつ病 (6.4%) や依存症 (4.8%) も高かった (図3)
- 児童生徒の支援課題 (図4) は遅刻や欠席の多さが最多であったが、友人とのトラブル、身体的愁訴の多さに加え、不十分な食事や場にそぐわない服装等不適切な養育を示唆する課題も1~2割見られた
- 家族の支援課題 (図5) ではひとり親が4割近くに達したほか、経済的困窮や学校からの連絡が取りづらいことが多かった。
- 連携機関 (図6) では市町村の子ども支援担当課、教育相談機関が約3割に達していた。次いで児童相談所や医療機関が続いた。障がい福祉サービス事業所との連携は1.9%にとどまった。
- 子どもを通して家庭の支援課題が把握されており、関係機関の連携も行われていたものの、障がい福祉サービス事業所との連携が乏しい等、生活面での支援が十分に行き届いていない可能性が示唆された。



Fujiwara T, Kawakami N, World Mental Health Japan Survey Group. (2011) Association of childhood adversities with the first onset of mental disorders in Japan: Results from the World Mental Health Japan, 2002-2004. J Psychiatr Res (IF2011=4.664). 45(4):481-487.
 田野中 恭子, 土田 幸子, 遠藤 淑美 (2015) ドイツにおける精神に障害のある親をもつ子どもへの支援. 佛教大学保健医療技術学部論集 9, 71-83
 松宮 透高, 八重樫 敦子 (2013) メンタルヘルス問題のある親による虐待事例に対する相談援助職の認識: 児童福祉と精神保健福祉における差異を焦点として. 社会福祉学 53(4) 123-136.

全体票N=468より

事例票N=752より